

フォトニュース

読書感想文で優秀賞を受賞



▲第56回青少年読書感想文全国コンクールで優秀賞の毎日新聞社賞に、阿古谷小学校4年生の福田千紘さんの『実験犬シロのねがい』を読んでも、福田町長に受賞の報告をされました。
「本を読んで命の大切さを学びました。心の中で何度も『シロありがとう。』と感謝しました。」と感想を語られました。

人権・同和教育研究大会を開催



▲2月13日、文化体育館で「第40回猪名川町人権・同和教育研究大会」が開催されました。基調講演では、前全国同和教育研究協議会委員長の高松秀憲さんを招き、「『学びと人権・共生』の学校・地域の創造を～同和教育の成果と教訓を継承して～」をテーマに講演され、約180人が参加しました。

午後からは、4分科会に分かれ、人権教育・啓発の実践報告が行われ、交流と研究の深化と拡充が図られました。

約1,100人が健脚を競う

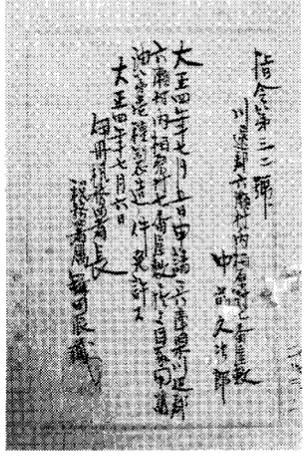


▲2月20日、松尾台周辺コースで彫刻の道マラソン大会が開催され、10時・5時・3時コース、小学生駅伝、スタンプラリーに全国から約1100人が参加し、青空の下、参加者は日頃の健脚を競い合いました。

いな が わ 歴史ウォーク ⑨6

近代の産業「醤油」と「木炭」
昭和中期までは、農村部の特色である自給自足の生活の色合いが濃かった猪名川町域では、味噌・豆腐・緑茶などの自家生産も多く行われ、醤油を作る家もありました。
明治政府は明治4年(1871)醤油税を創設して醤油醸造業者に課税、同32年からは個人にも課税し、この醤油税は大正14(1925)年まで存続しました。
『明治7年各区物産表(兵庫県)』では、中谷村2205円余、六瀬村120円余の醤油生産高があります。大正10年の『中谷村村勢要覧』には「大正2年以前八営業者ナシ」とあり、自家用の醸造高と推定されます。
大正3年中谷村に村治醤油醸造が

誕生、生産量は年々増加し、郡内の約4%を生産していましたが、昭和8年(1933)には生産量6割減となり減産が続きます。他産醤油の進出が原因と思われる。
近代の新炭生産は前記『物産表』では町域林産物総額の約83%を占め、中谷村が町域新炭生産全額の約93%を占めていました。
大正5年には池田炭の産地東谷・西谷・中谷・六瀬の産額の40%強を中谷・六瀬両村で産出しました。



いなぼうの石像が登場



▲2月23日、町のマスコットキャラクター「いなぼう」をモデルとした石像が完成し、町の玄関口の差組公園(差組地区)で受納式が行われ、町へ寄附されました。
今回寄附された石像は、町内の団体「猪名川諸動物愛護福祉協会」により製作、設置されたものです。差組公園の高さ3.5mの石像のほか、ふれあい公園(総合公園、白金地区)に高さ1.3mの石像、道の駅いながわ(万善地区)に高さ1.5mの石像と、コンパクトサイズ(高さ2.3m)の石像(ミニいなぼう)18体で、公共施設の窓口などに設置して、まちづくりのPRに活かしていきます。



春の便り届く

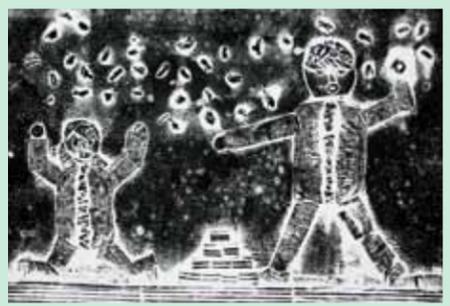
▲町北部の柏原地区でフキノトウ(写真右)が、また、西畑地区でツクシ(写真左)が顔をのぞかせ、春の到来を告げています。



▲柔道で組んでいるようすをあらわしました。手の重なりを工夫しました。
あまの 天野 いっぺいさん(2年)



揚津小学校



▲原爆を受けたアオギリ。この痛々しい傷あとが戦争の恐ろしさを伝えています。
はやし 林 来人さん(6年)

▲大好きな弟と雪遊びをしているようすです。毛糸で雪を作りました。
やまだ 山田 麗太郎さん(2年)

▼原爆ドームを実際に自分の目で見て、平和の大切さを強く感じました。

りゅうこう 柳光 だいすけ 大介さん(6年)

